

埋込形サーモスタット混合水栓

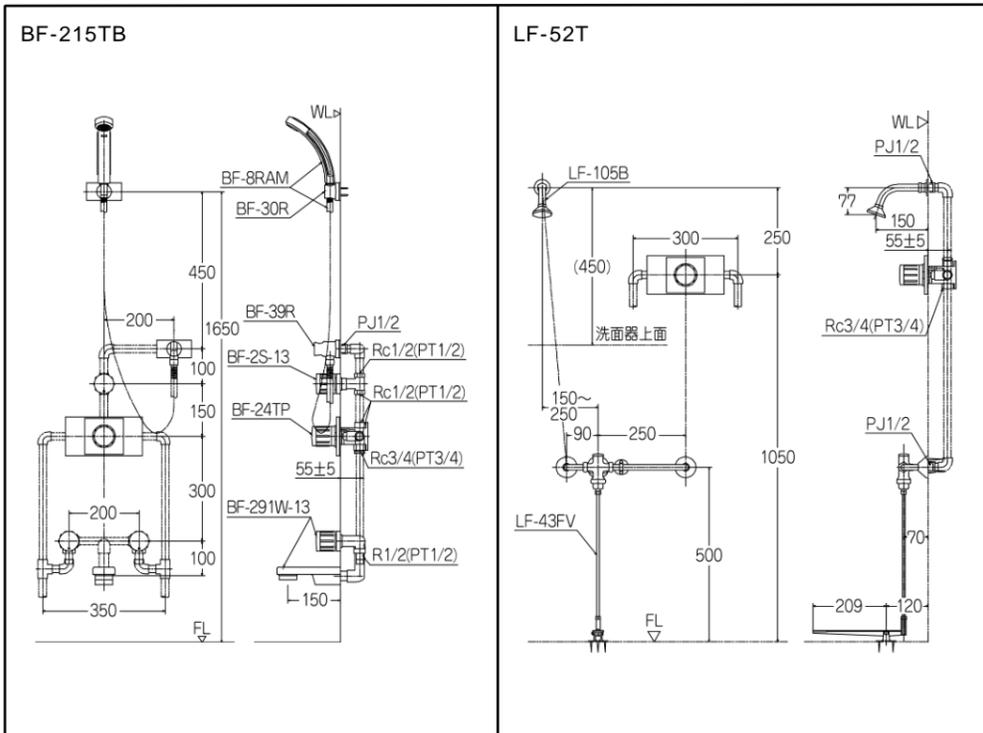
BF-25T型
BF-24T型

工事店様へのお願い

貴店名ならびに据付引渡し日を保証書にご記入の上、お客さまに必ずお渡しください。また、定期的に交換が必要な部品があることをお客さまに必ずお伝えください。

商品の機能が100%発揮されるよう、本説明書の内容を十分ご理解のうえ正しく施工してください。
なお施工完了後、この施工説明書を同梱の「取扱説明書の袋」に入れてお客さまにお渡しください。

施工完了図



シャワーバスセットの例を示します。

足踏式水栓と組み合わせた例を示します。

施工の前に

安全上のご注意

施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。施工完了後、正常に作動することを確認してください。お客さまに引き渡すときは取扱説明書にそって使用方法、お手入れの仕方を説明してください。この施工説明書は、取扱説明書と共にお客さまで保管頂くように依頼してください。

注意

湯水を逆に配管しないでください。 水を出そうとしても、湯が出てヤケドすることがあります。	禁止
水栓の上に物を落したり、衝撃を与えないでください。 水栓が破損し、故障や水漏れの原因になります。	
給湯器の給湯温度設定は85 以上で使用しないでください。 水栓が破損し、漏水のため家財に損害を与える恐れがあります。	分解禁止
修理技術者以外の方は絶対に分解したり、修理・改造は行わないでください。 ケガをしたり、故障・破損の恐れがあります。	
給水圧力は給湯圧力より必ず高くしてください。 給湯圧力の方が高い場合正常な温度調節ができず、ヤケドをする恐れがあります。	必ず実行

本製品の仕様と使用条件

通水温度上限	80	使用可能水質	上水
使用環境温度	0~40 (但し、内部の水を凍結させないでください)		
給水 給湯 接続	R1/2	圧力条件	給水圧力 給湯圧力

ガス給湯器と組み合わせる場合

組み合わせによって、給湯能力、必要水圧等制約があります。詳しくは当社にお問い合わせください。

貯湯式温水器と組み合わせる場合の給水圧力

最低必要圧力	0.05MPa{ 0.5kgf/cm ² }
最高圧力	0.59MPa{ 6.0kgf/cm ² }

ヤケド防止のため、給水圧力は給湯圧力より高圧となるようにしてください。給湯圧力が温水器の減圧弁によって0.08MPa以下に設定されている場合があります。この場合は別売の加圧ポンプにより給湯圧力を最低必要圧力まで上げていただく必要があります。(加圧ポンプ：当社FH-810-50(60)等) 給湯圧力は水栓直前における流動時の静水圧です。

その他の条件

給水圧力が0.59MPa{ 6.0kgf/cm² }を超える場合は、市販の減圧弁で適正圧力(0.20~0.39MPa{ 2.0~4.0kgf/cm² }程度)に減圧してください。

給湯に蒸気は使用できません。

給湯温度は使用する最高温度より約10 高く設定してください。

施工前のご注意

施工途中、施工後の漏水確認や温度調節、ストレーナーの清掃を行うために通水が必要です。水道工事と浴槽取付工事は、十分に工程を打ち合わせのうえ行ってください。

給水は上水道に接続してください。

温泉水などの異物を多く含む水には使用できません。

給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確認してください。

逆配管では表示通りに湯が出ません。

給湯配管はできるだけ短くし、必ず保温材を巻いてください。

商品の表面には、直接工具を掛けしないでください。

工具を掛ける場合には、必ず商品に布等をあてて保護してください。

開梱・取付けの際には商品の表面に傷を付けないように十分注意してください。

必ず配管中の異物を完全に洗い流してください。

施工方法

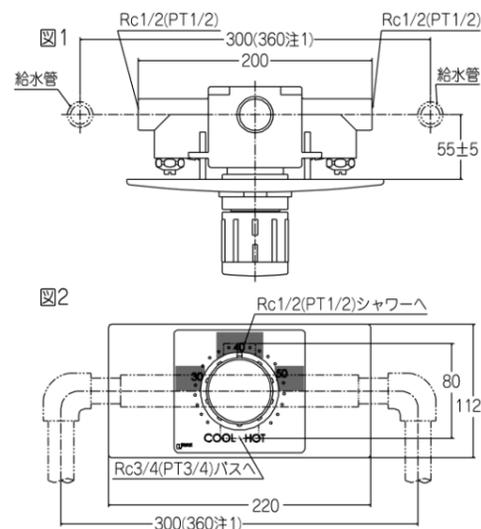
① 取付位置の決定

施工完了図を参考に位置を決定します。

施工完了図以外のセットの場合は、仕様図を請求してください。

特に埋込み深さ(55±5)には十分注意してください。

注1: 吐水口にBF-291W-13を組み合わせた場合。



② 給水・給湯配管

吐水部まで給水・給湯管を配管します。

③ 漏水の有無の確認

通水して接続部より水漏れがないことを確認します。

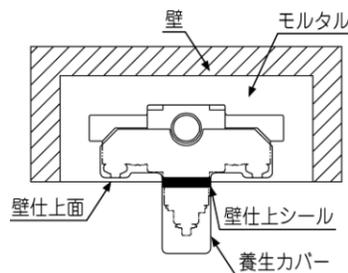
④ タイル仕上げ

養生カバー - に表示してある仕上範囲内(赤テープ範囲内)に納まるように、埋戻しとタイル仕上げをします

仕上範囲内に納めないと取り付けできません。

養生カバー - の内側にモルタル等が入り込まないようにしてください。

モルタルによる埋戻しをしない場合は給水・給湯及びシャワー接続、バス接続の各配管をそれぞれホルダー(現場手配)を用いて十分固定してください。



5 養生カバー - の取外し

取付ビス(2本)を外し、養生カバーゆすりながら外します。

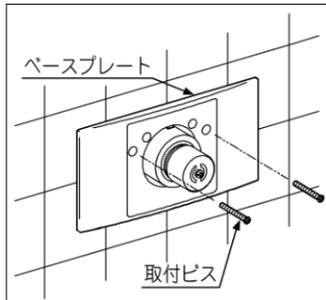
6 流量の調節

水栓の機能を十分発揮するため、水圧が0.20MPa{ 2kgf/cm² }を超える場合は、水側の止水栓を次の要領で調節します。

1. 温度調節ハンドルを「COOL」側一杯に回し、吐水口側(またはシャワー側)で全開にします。
2. 流量が20L/分程度(洗面器一杯にするのに約10秒弱)になるように、止水栓で調節します。

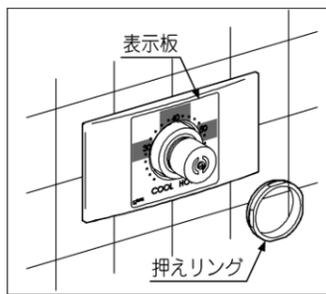
7 ベースプレートの取付け

ベースプレートを取付ビスで本体に取り付けます。
タイル壁の場合は、目地とベースプレートとのすき間がなくなるように目地の凹部を埋めてください。



8 表示板の取付け

表示板を押えリングで固定します。

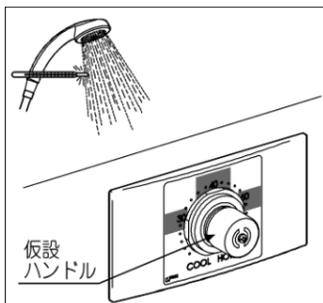


9 温度調節と温度調節ハンドルの取付け

あらかじめ本体に付いているハンドルは、出荷納品時の仮設ハンドルです。

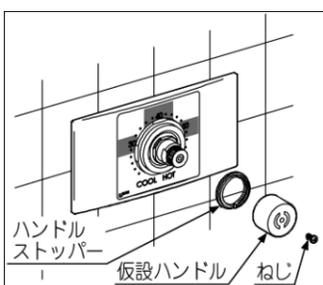
次の要領で、温度調節確認後、正規のハンドルに付け替えます。

1. 吐出温度が温度目盛に関係なく40 になるよう仮設ハンドルを回します。

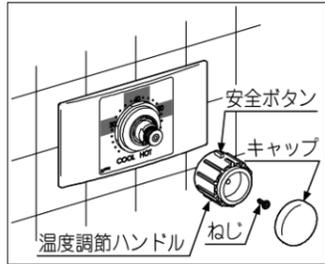


2. 吐出温度が40 になったところで止水し、仮設ハンドルが回転しないように注意して仮設ハンドルを外します。

仮設ハンドルの中にあるハンドルストッパーが落ちないように注意してください。



3. 安全ボタンが表示板の「40」に合うように正規の温度調節ハンドルをはめ込み、ねじを締めキャップをねじ込みます。

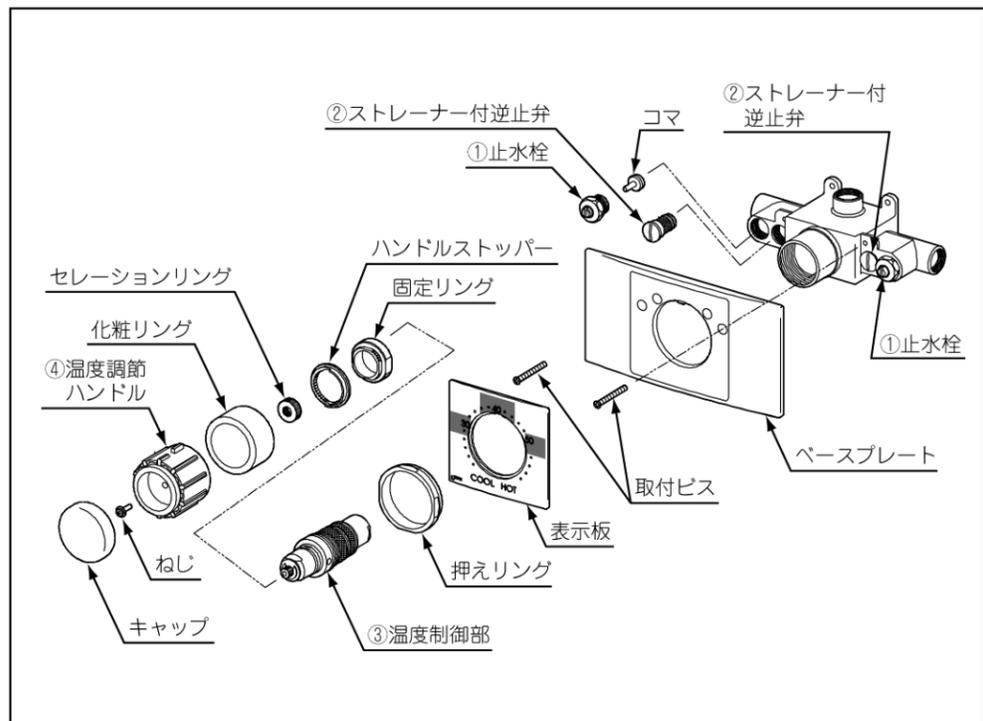


引渡前の確認

お客さまに引き渡すまえに以下のような現象がないか確認してください。

現象	点検内容	点検箇所	処置
流量が少ない	圧力は十分か?		「使用条件」の項参照。
	配管途中に大きな抵抗はないか?		抵抗となる障害物を取り除く。
	ストレーナーにゴミ詰まりはないか?	②(湯側と水側)	ゴミ等を水で洗い流す。
	止水栓は十分開いているか?	①(湯側と水側)	止水栓を十分開く。
湯水の逆流がある	逆止弁は正常か?	②(湯側と水側)	ゴミ等を水で洗い流す。 キズがあれば部品を交換する。
	希望の温度が得られない	圧力は十分か? ストレーナーにゴミ詰まりはないか? 温度調節はよいか? 流量調節はよいか? 温調カートリッジ働いているか?	「使用条件」の項参照。 ②(湯側と水側) ゴミ等を水で洗い流す。 ④ 「施工方法」の「9.温度調節」の項参照。 ①(湯側と水側) 「施工方法」の「6.流量調節」の項参照。 ③ 「機能検査」の項参照。

点検箇所は下図を参照してください。



機能検査

1. 温度調節ハンドル④を「40」の位置に合せる。
2. 止水栓①の水側のみを閉める。
この時吐出がほとんど停止すれば機能は正常。
吐出が止まらずそのままであれば温調カートリッジの故障ですから取替えが必要です。
3. 止水栓①の湯側のみを閉める。
このとき吐出がほとんど停止すれば機能は正常。
吐出が止まらずそのままであれば温調カートリッジの故障ですから取替えが必要です。